

早めに確実な排水対策を徹底するとともに、土づくりや10月上旬を中心とした適期播種等により、適正な苗立数を確保し、高品質大麦の生産を目指しましょう！

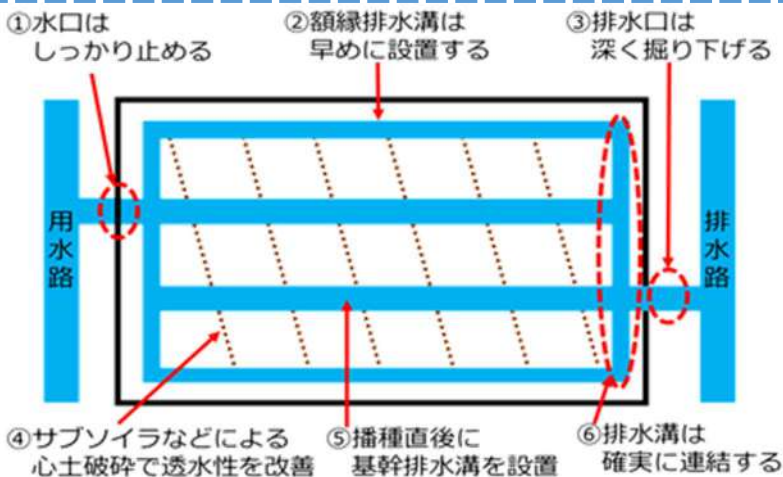
1 排水対策の徹底

～ほ場の乾きを促すため、稲刈り後、速やかに額縁排水溝を設置！～

大麦は、生育期間を通して湿害に弱いため、排水や砕土率の良し悪しが、その後の生育に大きく影響します。水稻早生品種作付け後の水田を積極的に活用し、稲刈直後から排水対策を確実に実施しましょう。

【排水対策のポイント】

- ①水口はしっかり止め、暗渠排水の蓋を外す。
- ②額縁排水溝は、幅30cm、深さ20cm以上のしっかりとした溝に仕上げる。
- ③溝に水が溜まらないよう、排水口を低く掘り下げるとともに、排水溝と確実に連結する。
- ④透水性の向上のため、心土破碎（深さ30～40cm）を実施する。
- ⑤播種直後に基幹排水溝を設置し、額縁排水溝とつなげる。



2 土づくり・基肥

～土づくりの実践や的確な基肥施用で適正な生育量に誘導！～

- ・酸性土壌では大麦の生育が不良となるため、耕起前にマグフミン(粒)を10a当たり100kg以上施用し、pH6.0～6.5を確保しましょう。
- ・基肥は、エコ大麦44号で10a当たり45kg程度を基本に、地力に応じて施用しましょう。
- ・堆肥等の有機物も積極的に施用しましょう（発酵けいふんの場合、10a当たり100kg）。

3 適正な播種

～播種は慌てず10月上旬を基本に計画的に行い、遅くとも10月中旬までに完了！～

(1) 種子消毒

- ・雲形病等の発生を防ぐため、種子消毒を必ず実施しましょう。
〔「ベンレートT水和剤20」を乾燥種子重量の0.5%湿粉衣（乾燥種子10kg当たり200mlの水を加え、薬剤50gを均一に混ぜる）〕

(2) 播種作業

- ・播種は必ずほ場が乾いた状態で行い、耕起・播種・作溝までの一連の作業は1日で完了させましょう。
- ・トラクターの速度を低速にし、できるだけ細かく砕土しましょう。
- ・播種時期・播種方法に応じた播種量とし、目標の苗立数を確保しましょう(表3)。
※降雨などの土壌水分が高い条件での播種は、苗立不良や初期分げつの減少につながるため、慌てず、土が乾くのを待ってから播種を行いましょう。
- ・ドリル播きの場合、出芽・苗立ちを揃えるため、播種深度は3cm程度とし、確実に覆土しましょう。

目標苗立数と播種量の目安

播種時期	目標苗立数 (本/㎡)	播種量の目安(10a当たり)	
		ドリル播き	表面散播
9月26～30日	140	6.0kg	6.5kg
10月上旬	150	6.5kg	7.0kg
10月中旬	200	8.5kg	9.0kg

※播種が遅くなる場合は、播種量を増やしましょう。

大豆の収穫作業等との競合が予想される場合は、大麦の播種が遅れないよう事前に調整しましょう。

4 雑草防除

～除草剤の的確な使用により、生育量を確保！～

【除草剤の使用時期と量の目安】 ※土壌表面散布除草剤はドリル播き限定です！

	除草剤名	10a 当たり 使用量	使用時期	適用雑草
一般的なほ場	トレファノサイド粒剤 2.5	4～5 kg	播種後出芽前（雑草発生前）	1年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)
	トレファノサイド乳剤	200～300ml (希釈水量 100ℓ)	播種後出芽前（雑草発生前）	
カラスノエンドウが多いほ場	リベレーターG	4～5 kg	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	1年生雑草
	リベレーターフロアブル	60～80ml (希釈水量 100ℓ)	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	

※多量の降雨が予想される場合は、薬害の恐れがあるため散布を控えましょう。